

○20番（藤原雅彦）（登壇） お

はようございます。

公明党議員団の藤原でございます。

1か月前、私は5年後、10年後の日本がどのようになるのか先行きの不安を感じておりました。今、5年後、10年後の世界がどのようになるのか、先行きの不安を強く感じております。

しかし、こうした国内外の不安が続く中にあっても、この議場にいる我々は、新居浜市民の皆様が安心して暮らし、子供たちが希望を持って未来を描き、高齢者が笑顔で過ごせる町を実現する使命があると考えております。

それでは、通告に従いまして、一般質問を行ってまいります。

1、令和8年度市政運営について。

古川市長の令和8年新年の訓示では、昨年を振り返る明るい話題として、大阪・関西万博での全国唯一の単独自治体参加による太鼓台派遣、県高校総体での新居浜東高校陸上女子の51年ぶり総合優勝、そして駅伝女子の初の都大路出場、新居浜ふるさと観光大使新浜レオンさんの2年連続紅白出場などを挙げられ、市民の誇りと元気を感じさせる内容でした。これらは、伝統文化の継承、発信、教育、スポーツを通じた若者の活躍、知名度向上という本市の魅力を全国に示した好事例と評価いたします。

一方、古川市長は、人口減少、物価高騰、自然災害激甚化などの激変する環境を指摘し、厳しい財政状況下で市民の安全、安心を最優先に、子育て、福祉の充実、防災・減災対策の強化、地域経済活性化、公共施設適正管理などをスピード感を持って進める必要性を強調されておりました。

また、職員に対し、前例にとらわれない柔軟な発想、部局横断連携、働きやすい職場環境を求め、市制施行90周年を控えた本年を次の100周年に向けた土台づくりの重要な年と位置づけられ、本市の限りない発展の夢を共有されておりました。

まず、昨年の成果の持続、拡大について、これらを踏まえ、以下の点をお伺いいたします。

万博太鼓台派遣や新浜レオンさんの活躍は、知名度向上に大きく寄与しました。本年以降、これらをレガシーとして、観光客誘致、ふるさと納税増加、企業誘致につなげる具体的な戦略はありますか。

特に、にはま営業本部を活用したトップセールスとの連動をどのように図るのか、お伺いいたします。

次に、厳しい財政状況下での優先施策について。

財政調整基金残高の回復に時間を要する中、市民の安全、安心を最優先としつつ、子育て、福祉充実と防災・減災強化を両立させるため、令和8年度当初予算案において、財源確保、事業見直し、最優先順位づけをどのようにされたのか、お伺いいたします。

続いて、職員の意識改革と職場環境整備について。

就任1年を経て、職員の意識や組織風土にどのような変化を実感されているのか、お伺いいたします。また、やりがいを感じる職場とするための具体的な取組として、業務改善提案制度の強化、テレワーク、時短勤務拡大、メンタルヘルス対策などを、本年どのように推進されるの

か、お伺いいたします。

次に、来年の90周年を控え、本年を次の100周年に向けた土台づくりの重要な年と位置づけられておりました。人口減少対策、地域経済活性化、持続可能なまちづくりのどの分野を重点的に基盤固めしていかれるのでしょうか、お伺いいたします。

また、本市の限りない発展の夢を実現するため、行政、議会、市民、企業、関係団体が一体となったチーム新居浜の取組をどのように進められるのか、お伺いいたします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 藤原議員さんの御質問にお答えいたします。

令和8年度市政運営についてでございます。

まず、今後の具体的な戦略についてお答えいたします。

昨年の大阪・関西万博では多くの皆様に御来場いただき、本市の伝統文化である太鼓祭りを国内外に発信することができました。次年度は、万博のレガシーを生かした新居浜太鼓祭りのプロモーションを実施したいと考えております。

また、新たに観光大使に就任された新浜レオンさんには、その後、テレビやラジオ等で本市の魅力を発信いただいております。さらに観光大使の水樹奈々さんには、万博において歌っていただいた「ちょおうさじゃ」を再レコーディングし、ベストアルバムに収録いただいております。今後におきましても、観光大使の皆様のお協力を得ながら、引き続き本市の魅力を積極的に発信することで、観光客の誘致につなげてまいります。

次に、ふるさと納税の増加についてでございます。

本市のふるさと納税については、近年、他市と比較して低迷している状況にあります。そこで、令和8年度から実施体制を全面的に見直し、プロポーザルで選定した全国的に実績のある事業者による業務委託を行う予定としております。今後は、委託事業者と連携して、新たな返礼品の開拓や広報、販売促進などを強化し、寄附額の増加に取り組んでまいります。

次に、にいはま営業本部を活用したトップセールスとの連動についてでございます。

観光誘客、ふるさと納税、企業誘致のいずれについても、にいはま営業本部が中心となって力を入れる必要があるものと考えております。各担当課の積極的な取組に加え、営業本部の職員が部局横断的な営業活動として関わり、さらに効果が期待できる取組については、本部長である私がトップセールスを行い、積極的に推進してまいります。

次に、令和8年度当初予算案における財源確保、事業見直し、優先順位づけについてでございます。

財源確保につきましては、国、県の補助制度や特定目的基金に加え、市債を活用した財源手当てを行いました。

次に、事業の見直しについてでございます。

社会情勢の変動による物価と人件費の高騰、扶助費、公債費の増加、また老朽化が進む公共施設の維持、管理など、歳出の増加が見込まれ、要望段階での予算額を圧縮する必要があります。このことから、令和8年度当初予算編成方針におい

て、施策費について一般財源額ベースで5億円のシーリングを実施し、各部局において事業のスクラップを基本とした事業の見直しを行うとともに、事業の新規、拡充も行うメリ張りのあるものといいたしました。

次に、優先順位づけについてでございます。

四国で一番の子育て支援を目指すための子育て支援の充実、近い将来起こる可能性の高い南海トラフ巨大地震等に備え、安全、安心を実現する災害と危機管理に強いまちづくりのための防災能力の強化、そして町を元気にする新たな地域経済の活性化戦略として、地域経済の活性化の3本の柱を掲げ、重点的かつ効率的な施策を展開するための当初予算案といたしております。

次に、職員の意識改革と職場環境整備についてでございます。

私が市長に就任してから1年余りの間、様々な業務を通じて多くの職員と接してまいりました。人員や予算など、決して十分とは言えない状況の中で、創意工夫を凝らし、市民のため、懸命に職務に当たってくれていると感じております。

特に、今年度においては、本市の最上位計画である第六次長期総合計画の中間見直しや、大阪・関西万博への太鼓台派遣など、私も先頭に立ち、全庁を挙げて意欲的に進めてまいりました。そうした取組の中で共に汗を流し、苦勞をし、一つ一つの業務を成し遂げることが、市職員としてのあるべき姿を自ら見だし、自分自身の働きがいをも高めることにつながっているのではないかと感じております。やりがいを感じる職場とするための具体的な取組につきましては、業務改善提案をはじめとした様々な取組を行ってきたところですが、これらに共通するのは、職員一人一人が常に問題意識を持ち、課題を発見し、その解決に挑戦する強い意志を持つこと、そして組織としてその意欲を支え、後押しするよい雰囲気を持続し続けることが重要であると考えております。

この基本的な考えの下で、テレワークや時短勤務、メンタルヘルス対策などを効果的に組み合わせ、職員がやりがいを感じ、職務に専念できる職場づくりに引き続き取り組んでまいります。

次に、市制施行90周年、次の100周年への土台づくりについてお答えいたします。

来年、本市は市制施行90周年という大きな節目を迎えますが、本年を100周年に向けた土台づくりのスタートの年と位置づけております。

また、人口減少対策、地域経済活性化、持続可能なまちづくりにつきましては、いずれも本市の重要な政策テーマであります。施政方針でも申し上げましたように、特に子育て支援の充実、地域経済の活性化、防災能力の強化について、重点的に基礎固めを行い、これらの施策を進めていきたいと考えております。

次に、チーム新居浜の取組についてでございます。

私は、市長就任以来、対話とコミュニケーションを基本とした市政運営を行ってまいりました。今後も、引き続き様々な機会を捉えて、市民の皆様、事業者の皆様との対話を重ねるとともに、市議会の皆様と建設的な議論を行いながら、本市を一つのチームと捉え、本市の限りない発展に向けたまちづくりに取り組んでまいります。

○議長（田窪秀道） 藤原雅彦議員。

○20番（藤原雅彦）（登壇） ありがとうございます。

これは要望でございます。令和8年度市政運営に当たり、常々市長が言っておられますスマートシュリンクを推進し、市民幸福度向上を最優先にさせていただきたい。そして、夢あふれる新しい新居浜を実現されることを要望いたします。